

お 名 前	性 別	卒業年	小学校	現 住 所
小柳津 <small>あきこ</small> 堯子	女 性	昭 3 1 年 (1956)	清水野小	湖西市

「 田うえ 」

(6年生当時の作文)

昭和30年発行文集「つどい」

新城町南部国語研究会発行より転載

今日はよい天気ですが、すこしむし暑かったのでいやだったが、学校がすんでから急いで田んぼに行った。行く道々、もうやめて帰ろうかといく度か思ったが、おばあちゃんが、「学校がすんだらすぐおいで。」と言われたのを思い出し、行くことにした。

田んぼに着くと、だれもいないようなのでさがすと、さくらの木の根元にいたので、急いでかけていったら、ちょうどおやつを食べていた。おばあちゃんは、「堯子、いいところに来たなあ。」と言って、わらいながらおかしを出してくれた。そっと口に入れると、とてもあまかった。

さあ、今度は植える番だと思ってまっ先に田へ入って植えた。そばで見ていたおばあちゃんは、「堯子は大きくなったかわりに植えるのにうまくなってきた。」とほめてくれたので、私はよけいにうれしくなって植えていたら、お母さんが、「やごめがさすに。」と言ったので、急におそがなくなってきた。その話を聞いたら、本当にさされそうでおずおずと植えていると、そのうちに、ちくりとさしたので、私は、「いたたた。」と叫んで飛び出してしまった。するとそばで植えていたおばあちゃんが、「もうあきの神がきたのか、少し早すぎはしないかな。」と大わらいをした。私は、「ちがうに、ちがうに。虫がさいたじゃん。」と言ってぷんぷんしながら、またしぶしぶ田に入って植えた。

そんなことを言ってるうちに、そろそろ終わりごろになると、なえが足らんくなってきたので、「私が持ってきてあげる。」と言って、どろ足のままでゴムぞうりをはいて走ったら、坂の所ですべって転んでしまった。それを見た妹は、「アハハハ」とわらったので、おこれて「しらん。」と言って、ぼって行こうとすると、またつるっとすべって転んでしまった。